

2019年(R元年)

9月

No. 332

(ホムパ' - ジ アド' リ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド' リ) honbu@hitoha-fukushi.com

ひとはろうしん

(題字: 若月由美)



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

少しづつ秋の気配を感じられますが、私はこの夏の暑さにはおなまわす昼の休憩時間に行っているグラウンドゴルフからリタイア。しかし、きららの猛者連は暑さも何のその、歓声を上げながら競技に取り組んでいます。グラウンドゴルフのみならず活動力でも大いに力を発揮しています。むろん、職員の細やかな配慮あつてのことです。

3年前の7月26日、神奈川県にある津久井やまゆり園で起きたあの凄惨な事件を覚えているでしょうか。私達にとってはいつも問いかけられている事件です。特に同じ生活支援施設に位置づけられている共同ホームひとはは、定員数が違うとはいえ、まかり間違えば生活している人たちの人権を損ないかねません。

どうしたら住民の一人としての生活が可能になるか、日々の活動を通して問い続けています。お願いがあります。家族や後援会の方々、地域住民の方々をはじめ誰でもふら、と訪ねてきてくれることが必要です。内にいると気づかぬことが時々あります。どうか気軽ににお出でいただき、きららの活動に触れてみてください。

「お〜い、聴こえまあか」にはこんな言葉が載っています。

「わしはわしたなみでえかろうかい」
本当に大切にしたい言葉です。
(理事長 寺尾 文尚)



後援会より "いつもありがとうございます!"

毎月ひとはろうしんを楽しみにしています。原稿を書く方、編集する方、発送する方、本当にありがとうございます。(青森県弘前市)

こんなにほのろする通信は他にありませんね。(広島市佐伯区)

いつまでも応援できるよう、私の物の見方、考え方、生き方をし、かり、地に足を付けて前を向いて生きていきます。そして、ザ・わたの一員としてひとはを応援できる営みを、音楽を通じて育んでいきます!(島根県出雲市)

さつき亭レシコーナー「なすのカレー煮」

材料

- 長なす — 2本
- ベーコン — 3枚
- 玉ねぎ — 半玉
- 油 — 適量
- カレー粉 — 小1/2
- だししょうゆ — 適量
- カレールー — 1かけら
- 水 — 1カップ

作り方

- ① なすを油で炒める。
- ② しんたよりしてきたら、ベーコン、玉ねぎを入れて炒め、カレー粉を加える。
- ③ 水、だししょうゆを入れて火にかける。
- ④ 火をとめて、細かくきざんだカレールーを入れる。
- ⑤ カレールーがとけたら火にかけてとろみをつける。

ある週の おまかせランチ

650円

「私の学び」

ひあ・くらぶに通う子どもたちは、3月まで学生だった私に、授業では学ぶ事ができなかったことをたくさん教えてください。

散歩へ行った時の事です。小学2年生のAさんは、1年生のHさんと手をつないで歩きます。角を曲がり、大きな道へ出た時、大人は車道側を歩きます。Aさんも大人と同じように車道側へ行き「あぶないけえね」とHさんと手をつなぎ直しました。子どもは大人にしてもらった事や、大人がしている事をよく見ているんだなと思います。

(ひあ・くらぶ 坂田 津季美)

「頼れる仲間」

みなさん！テレビで放映されている「家庭の医学」観てますか？毎週ではないのですが、これが放送される火曜日、携帯に「今テレビ何観よるん？いつものしよるよ。」と重広さんから知らせが入る。何十年と病院勤めから離れている私に「仲間の健康を守ってあげる仕事じゃけん、観て勉強すれば。」の一言。数ヶ月前、体調を崩しショート利用していた時も知らせが入った。これが放映される間は知らせが入るだろう。待っている私。人生100年時代。共に勉強、共にいつまでも健康に。

(看護部 中村 利江)

「笑う門には」

アグリサポートから作業所へ異動となり5ヶ月が経ちます。キララの仲間から「今年も苗箱の注文は多く、セカセカにしてるよ☆」という声を聞き、今年もたくさんあることを知ると、猛者の中農家の方も田んぼを大切にされているんだな〜と感心いふけっております。

当たり前ですが、作業所が変われば活動も変わり、役割も変わります。作業所の方が働く姿を見て「今の自分に何ができるのか」と難しい顔をしていると、キララの仲間は「何難しい顔をしとるん？笑え笑え」と言わんばかりの笑み。改めて「笑う門には福来る」という格言を思い出す毎日です。

(ひとは作業所の天然温泉こと 井上大輔)

「共存共栄」

「大当りよ」の声。何ですかと聞くと「ひとはつうしんの原稿依頼よ。」これは枕を高くして寝られていい、とスタッフと大笑いし、早速鉛筆を手に取りました。

くらむぼんがスタートして5年目。子どもさん達との出会い、そして別れ。そんな中軒先に燕が巣を作りました。子ども達は窓越しに毎日見守り続けています。後何日かすると雛の誕生です。子ども達の黄色い声援、つばくらの可愛い声と一気に賑やかさが増す事でしょう。燕の成長する姿は、子ども達に豊かな感性や心が生まれる事と思っています。自然が教えてくれる生きた教材が、目の前にプレゼントされ、今年はずっと良い事が有るのかな。(くらむぼん 仲増 一枝)

後日談 雛は無事誕生し、子ども達同士、また子ども達がスタッフに対して巣に近づいたらいけない、大きな声で驚かせてはいけない、と燕を気遣う姿が見られています。(くらむぼん 佐竹 正志)

「日々思うこと」

私の弟は無認可時代からひとはを利用しており、長い付き合いになります。今、キララの仲間と一緒に活動する中で、感じる事があります。それは、就業支援施設の中で経営破綻した所とそうでない所があり、あくまで私感ですが、その違いはその施設の生い立ちにあるのではないかという思いです。私は海に携わる仕事をする傍ら、週に1回あっぷで働いていますが、それゆえに見える事があります。それは、責任者がどっちを向いて仕事をしているか、また、現場の担当者が利用者の視点を持ち続けているか、かが大切ではないかと。まあ、全ての組織に共通なんだろうけど。(就労センターあっぷ 中田 善方)

編集後記
西本野とあんまの建設で、大変お世話になって(有)ユイカワ様。建物完成から数ヶ月経たぬ間に、近くまで来たからと、現場監督責任者の島津さんが事務所を動かして下工しています。建設中(二)棟を一旦(一)度も修復して下工、といった方です。建設の経緯もつづかりを大切に(二)棟に感じています。(中内 宏美)